

伊藤 正晃*

Masaaki ITO*



漢越音からみるベトナム語音節の一考察

～現代中国語(普通話)学習の応用を目指して～

A study of Vietnamese Syllabic Features from Han-Yue Phonemes

— For the application toward learning Mandarin Chinese —

キーワード：漢越音，普通話，音節，ピンイン，
クオック・グー，漢字文化圏

0. 目的

本稿では、現代中国語（以降、「普通話」と称する）の漢字音とベトナム語の漢字音（漢越音）の関連性を音節の観点から比較していく。そして、中国語学習者において、習得した漢字音の知識がベトナム語の習得の一助となるのか、また、普通話の漢字音からベトナム語の漢字音の類推がどの程度可能であるかを明らかにすることを目的とする。普通話とベトナム語の比較をおこなうため、普通話における音節の体系を基本とするが、ベトナム語と比較しやすくするため、従来の手法に筆者の手を加えたかたちで表を作成し示していく。

1. 漢字文化圏における漢字以外の文字について

漢字文化圏の中で、漢字の使用を廃止したことのある、または廃止している国家として、朝鮮民主主義人民共和国（以降、「北朝鮮」と称する）、大韓民国（同「韓国」）、ベトナム社会主義共和国（同「ベトナム」）の3か国がある¹⁾。

現在、朝鮮半島にある北朝鮮および韓国では、どちらも同じ「ハングル」を使用している。「ハングル（한글 / 韓字）」という名称は韓国の呼

び名であって、北朝鮮では「チョソングル（조선글 / 朝鮮字）」と呼ばれている（以降、「ハングル」に統一して称する）。

ハングルの提案したのは李氏朝鮮の世宗王で、1444年のことである²⁾。ハングルの書物『訓民正音（훈민정음）』で頒布したのが1446年のことである。それ以降、日本の「漢字とかな混じり文」と同様に、「ハングル専用文と漢字ハングル混じり文」の状態で文章が書かれていた。しかし、第二次世界大戦後の1949年に、北朝鮮は漢字の一般的な使用を廃止した³⁾。また、韓国では1948年の建国と同年に、「ハングル専用法」が制定され、「大韓民国の公用文書は、ハングルで書く。ただし、当分の間必要な時には漢字を併用することが出来る⁴⁾。」とし、さらに2005年1月に「国語基本法（국어기본법）」が出され、第14条に「公共機関等は公文書を一般国民が分かりやすい用語と文章で書かなければならず、語文規範に合わせてハングルで作成しなければならない。ただし、大統領令で定める場合には括弧の中に漢字または他の外国の文字を使うことができる⁵⁾。」とあり、両国とも漢字の使用を廃している。

漢字の使用を廃したもう一つの家であるベトナムは、紀元前111年より中国の支配下にあったため、中国語の文語がそのままベトナム語の書き言葉となった。中国の支配が939年に終

* 中部大学国際関係学部国際学科

わり、1343年に初めて、ベトナム南方の文字「チュノム (Chữ Nôm/ 字喃)」と漢字「チュハン (Chữ Hán/ 字漢)」が混ざった「ハンノム (Hán Nôm/ 漢喃)」の使用が確認された⁶⁾。しかし、インドシナ半島がフランス領インドシナ連邦に組み込まれた1887年からはフランス語が公用語化され、同時にベトナム語をローマ字表記化させた「クオック・グー⁷⁾ (Chữ Quốc Ngữ/ 字國語)」が使用されるようになった。当初は浸透しなかったが、ベトナムが独立を果たした1945年以降は、クオック・グーをベトナム語の公式な文字とすることを定め、漢字の使用が廃止された。

2. 音節について

漢字文化圏では「漢字語」と呼ばれる漢語系語彙が存在している。日本語だけでなく、韓国・朝鮮語やベトナム語でも使用されている。両言語の初級教科書において、それぞれハングルとクオック・グーで単語が書かれているが、その音節に対応する漢字が併記されていることがある。北朝鮮、韓国、ベトナムとも漢字を使用していないが、その音声に漢字の名残が存在しているのである。

大学の教育における中国語の教育で対象となっているものは、「普通話」と呼ばれる民族共通語が一般的である。本稿では、普通話の漢字音の音節を中心として、漢字文化圏であるベトナム語習得への活用方法を追求するため、本章では普通話の音節を詳説する。

普通話における漢字音の音声は「中国音韻学」という分野で研究されている。中国音声学では漢字音を以下のように分類している。

声母	韻母		
	韻頭	韻	
		韻腹	韻尾

図1：中国音韻学における音節の分類

i. 「声母」はいわゆる「子音」にあたり、音節の初めの音を表すことから、「頭子音」とも呼ばれる。普通話では「頭子音」という呼び方をしないが、ベトナム語では「頭子音」という概念が用いられる。また、普通話では声母のない音節が存在する。普通話では21種類の声母に「声母なし」を合わせた22種類がある。

ii. 「韻母」は「母音」とは同義ではなく、ひとつの音節から声母を除いた、「母音を中心とした部分」としているため、中国語の特徴でもある声調を含める場合もある。

iii. 「韻頭」は「介音」とも呼ばれ、声母と韻に存在する半母音を指す。普通話では /i/, /u/, /y/ の3種類がある。なお、韻腹をもたない音節も存在する。

vi. 「韻腹」は「主母音」とも呼ばれ、音節の中心となる音である。

v. 「韻尾」は音節末音のことで、音声的な特徴から陰声韻 (-ø [韻尾なし]) ; /-i/, /-u/ : 母音韻尾), 陽声韻 (/ -m/, / -n/, / -ŋ/ : 鼻音韻尾), 入声韻 (/ -p/, / -t/, / -k/, / -ʔ/ : 閉鎖音韻尾) に分類される。しかし、普通話においては、入声韻ならびに陽声韻の / -m/ が消滅しているため、「韻尾なし」を含めると5種類となっている。

以上をふまえ、声母および韻母の体系を以下に示す。なお、声母に関しては、ベトナム語と比較をするため、国際音声学会 (International Phonetic Association) が定めた子音表に従って配列する。

3. 普通話とベトナム語の漢字音(漢越音)

3.1. 漢字音

本稿で扱う漢字音は、Trương Văn Giáp 編『Từ điển Việt-Hán Hiện đại (現代越漢词典)』(Nhà xuất bản Khoa Học Xã Hội (社会科学出版社), 2016) の中にある「Bảng Chữ Xếp Theo Âm La Tinh (アルファベット順単語チャート)」の項目に記載されている漢字10,624字を対象とし

た。基本的には1 漢字につき1 音節であるが、多音字⁸⁾と呼ばれる複数の音節をもつ漢字も含まれているため、上記の数字は漢字自体の数ではなく、音節の数である。なお、多音字は普通話だけでなく、ベトナム語にもあることを述べておく。

3.2. 声母（頭子音）

表1, 2にある格子内の上部は各言語の表記（普通話では「ピンイン」、ベトナム語では「クオック・グー」）で、下部は国際音声記号（International Phonetic Alphabet : IPA）である。表2にある下線のうち、直線（ ）はハノイ（Hà Nội）を中心とする北方方言で現れる音声で、波線（ ）はホーチミン市（Hồ Chí Minh；旧称サイゴン（Sài Gòn））を中心とする南方方言で現れる音声である。本稿では北方方言の音声扱うこととする。

両者を比較すると、普通話は破擦音⁹⁾が多く、ベトナム語は摩擦音¹⁰⁾が多い。また、ベトナム語に存在し、普通話に存在しない音声に入破音¹¹⁾がある。

表3の縦軸は普通話のピンイン、横軸はベトナム語のクオック・グーである。普通話の声母の並び順は中国語学習者用テキストに用いられている音節表に従う。なお、ベトナム語の頭子音の並び順はアルファベット順となっており、子音の特徴ごとに配列されていないため、普通話の声母の並び順に対応する漢字の多い順、つまり、表の左上から右下の対角線上に、対応する漢字が多くなるようにベトナム語の頭子音を配列した。

以下に、普通話と声母に対応するベトナム語の頭子音について詳述するが、両者が同音でない場合に限る。

3.2.1. 普通話の声母をもたない音節（以下、「ゼロ声母」と称す）、唇音、齒茎音

普通話におけるゼロ声母（ $\emptyset$ ）の音節に対応するベトナム語は、頭子音をもたない（ $\emptyset$ ）音節だけでなく、d, ng, v も多いことがわかる。そして、ベトナム語には [p] の音がないため、普通話の b[p], p[p^h] はベトナム語の b[b] に集約されていることがわかる。しかし、普通話の

調音部位		双唇音		唇齒音		齶音		齶后音		卷舌音		齶硬顎音		硬顎音		軟腭音		声門音	
調音方法		清	濁	清	濁	清	濁	清	濁	清	濁	清	濁	清	濁	清	濁	清	濁
塞音	不送气	b				d										g			
		[p]				[t]										[k]			
	送气	p				t										k			
		[p ^h]				[t ^h]										[k ^h]			
鼻音			m				n												
			[m]				[n]												
擦音				f		s				sh		x				h			
				[f]		[s]				[ʃ]		[ç]				[x]			
塞擦音	不送气					z				zh		j							
						[ts]				[tʃ]		[tɕ]							
	送气					c				ch		q							
						[ts ^h]				[tʃ ^h]		[tɕ ^h]							
近音											r								
											[ɹ]								
边近音							l												
							[l]												

表1：普通話の声母体系

Vị trí tạo âm		Đôi môi		Môi răng		Chân răng		Sau chân răng		Quặt lưỡi		Chân răng-vòm		Vòm		Ngạc mềm		Thang hầu	
Phương		kêu	điếc	kêu	điếc	kêu	điếc	kêu	điếc	kêu	điếc	kêu	điếc	kêu	điếc	kêu	điếc	kêu	điếc
Hút vào			b [b]				đ [d]												
Tắc	không hơi	(p) [p]				t [t]							ch, tr [c]			c, k, q [k]			
	bật hơi					th [tʰ]										kh [kʰ]			
Mũi			m [m]				n [n]							nh [ɲ]		ng, ngh [ŋ]			
Xát				ph [f]	v [v]	s, x [s]	d, gi, r [z]		gi [ʒ]	s [ʃ]	r [ʒ]					kh [x]	g, gh [ɣ]	h [h]	
Tắc xát xuýt	không hơi									tr [tʃ]									
	bật hơi																		
Tiếp cận														d, gi, v [j]					
Tiếp cận cạnh lưỡi							l [l]												

表2：ベトナム語の頭子音体系

	ø	d	ng	v	b	m	ph	đ	n	ng	l	c	q	kh	h	g	k	t	ch	tr	s	x	th	nh
ø	503	343	201	168	1	3			3	48	4	2	10	2	30	7		3				1	6	70
b					412	3	31								1		1	92	1				1	
p				2	188	2	138					1					1	33			3		7	
m		23			1	418												1						3
f					9		306								1									
d			3					470	1							1		5	3	6		4	10	
t		4						215	1		1			3				3		1	5		201	
n	2		2					3	200	22	3			2										20
l									1		731			2			1				1			1
g	2	1	10									287	122	19	10	9	3							
k	1			2								26	32	222	14	2					1	1		
h	8		6	2								13	1	12	478			5					1	
j	3	2	2								2	188	78	13	14	130	178	180	3	3	1	1	15	1
q	1	1	2					1		2		68	17	154	4	3	56	63		1	6	14	100	
x	4	4	1	1				1				1	1	18	302	15	2	264		1	7	3	3	7
zh	1	2						4			1					7		3	241	284	13	2	10	
ch			1					3			3	3		1	7			4	16	105	169	119	62	
sh		6				6		1			3				4			4	4	2	140	24	246	3
r		16	1	3					2									1					2	129
z																1		197	5	40	2	1	8	
c																		87		3	25	12	102	
s		1												2				193	3	1	32		5	
hng														1										
ng	1																							

表3：普通話の声母とベトナム語の頭子音の対応表

p の音はベトナム語の ph[f] の音にも多く現れており、普通話の f[f] と混ざって現れていることが窺える。

普通話の d[t] はベトナム語の đ[d] に対応している。また、ベトナム語の đ は普通話の t[tʰ] にも対応していることがわかる。なお、普通話の t はベトナム語の th[tʰ] とも対応している。

以下に、普通話の声母に対応するベトナム語の頭子音を「○(多い)」「△(やや多い)」で示す。

3.2.2. 普通話の喉音, 歯茎硬口蓋音, そり舌音, 歯茎音（摩擦系）

普通話の喉音 g[k], k[kʰ], h[x] はベトナム語の c[k], q[k], kh[x], h[h] に対応しているのがわかるが、普通話の j から s にわたる 10 の声母は、3.2.1. のように明確に 1 対 1 のような対応になっていないことがわかる。普通話の歯茎硬口蓋音 j[tɕ], q[tɕʰ], x[ɕ] は c, q, kh, h だけでなく、g[ɣ], k[k], t[t] にも対応しているのが見てとれる。

普通話のそり舌音 zh[tʂ], ch[tʂʰ], sh[ʂ], r[ʐ] はベトナム語の ch[c], tr[c], s[s], x[s], th[tʰ], nh[p] に対応している。

普通話の歯茎音（摩擦系）z[ts], c[tɕʰ], s[s] はベトナム語の t に多く現れているが、c に限っては th に多く現れていることがわかる。

以下に、3.2.2. で対象となった普通話の声母

についてまとめる。

3.2.3. ベトナム語の頭子音から見た普通話の声母

ベトナム語の頭子音からみて特筆すべきは、t および th の分布である。t は普通話の j, q, x ; z, c, s に対応している。無声音¹²⁾/有声音¹³⁾の別に関係なく対応していることがわかる。それとは対照的に、th は普通話の t（表 4 を参照）、q, sh, c のうち、t, q, c は有声音であり、普通話とベトナム語の互いに有声音が対応していることが見てとれる。ただし、ベトナム語の北方方言において、無声音/有声音の別が現れるのは t, th の組み合わせだけであり、その他の g, k と j, q においては、無声音 g, j はベトナム語の c, q（ともに [k]）に、有声音 k, q はベトナム語の kh[x] に対応しているのが窺える。

3.3. 韻頭（介音）と韻腹（主母音）

表 6, 7 にもあるように、普通話とベトナム語の韻（母）体系は 2. にも述べたとおり、体系が大きく異なる。普通話では、韻母の部分を韻頭（介音）4 種類と「韻腹＋韻尾」13 種類に分けられ、ベトナム語では韻腹 21 種類と韻尾 9 種類に分けられている。上記からもわかるように、ベトナム語は韻頭で区別していない代わりに、純粹な核母音（Nguyên âm hạt nhân）と唇音を伴った核母音（/w-/）の 2 種類に大別

	ø	d	ng	v	b	m	ph	đ	n	ngh	l	th
ø	○	○	○	○								
b					○							
p					○		○					
m						○						
f							○					
d								○				
t								○				○
n									○	△		
l											○	

表 4：普通話のゼロ声母，唇音，歯茎音とベトナム語の対応分布

	c	q	kh	h	g	k	t	ch	tr	s	x	th	nh
g	○	○											
k			○										
h				○									
j	○	△			○	○	○						
q	△		○			△	△					○	
x				○			○						
zh								○	○				
ch									○	○	○		
sh										○		○	
r													○
z							○						
c							○					○	
s							○						

表5：普通話の喉音，歯茎硬口蓋音，そり舌音，歯茎音（摩擦系）とベトナム語の対応分布

韻尾 介音	/ø/				/i/		/u/		/n/		/ŋ/		
/ø/	-i [ɿ],[ɿ] ¹⁴⁾	a -a [a]	o -o [o]	e -e [ɤ]	ai -ai [ai]	ei -ei [ei]	ao -ao [ao]	ou -ou [ou]	an -an [an]	en -en [ən]	ang -ang [aŋ]	eng -eng [əŋ]	ong -ong [oŋ]
/i/	yi -i [i]	ya -ia [ia]		ye -ie [ie]			yao -iao [iao]	you -iou [iou]	yan -ian [iən]	yin -in [in]	yang -iang [iaŋ]	ying -ing [iŋ]	yong -iong [ioŋ]
/u/	wu -u [u]	wa -ua [ua]	wo -uo [uo]		wai -uai [uai]	wei -uei [uei]			wan -uan [uan]	wen -uen [uən]	wang -uang [uaŋ]	weng -ueng [uəŋ]	
/y/	yu -ü [y]			yue -üe [ye]					yuan -üan [yən]	yun -ün [yn]			

表6：普通話の韻母体系

していることがわかる。表6，7のままでは比較ができないため、ベトナム語の分類に普通話の韻頭の概念を加えた順に並び替え、以下に普通話とベトナム語の対応を表にまとめる。縦軸は普通話の「韻頭+韻腹」で、横軸はベトナム語の韻腹である。

表8でもわかるように、普通話の「韻頭+韻腹」はベトナム語に比べて種類が少ない。そのため、ベトナム語の i[i] は普通話の e, er, i[ɿ], i[ɿ], i[i] と対応するなど、1対1で対応しているものは普通話の er とベトナム語の i のみで、対応関係の一貫性がないことがわかる。そのよ

うな状況ではあるが、韻頭（介音）で区分し配列をおこなうと、表3に示したように、表の左上から右下の対角線上に対応する音節が集中しているという傾向が窺える。

3.4. 韻尾

表6，7にある韻母の末尾にあたる韻尾に着目し、普通話とベトナム語の対応を表9にまとめる。

韻尾で普通話とベトナム語を比較すると、一定の法則がみえる。普通話の韻尾なしはベトナム語の韻尾なしに、普通話の /n/ はベトナム語

		Không âm cuối	Âm cuối trợt		Âm cuối lơ phụ âm mũi			Âm cuối lơ phụ âm tắc		
		ø	/j/	/w/	/m/	/n/	/ŋ/	/p/	/t/	/k/
Nguyên âm hạt nhân	/ă/		ay [ăj]	au [ăw]	ăm [ăm]	ăn [ăn]	ăng [ăŋ]	ăp [ăp]	ăt [ăt]	ắc [ăk]
	/a/	a [a]	ai [aj]	ao [aw]	am [am]	an [an]	ang [aŋ]	ap [ap]	at [at]	ac [ak]
	/ɛ/	e [ɛ]		eo [ɛw]	em [ɛm]	en [ɛn]	anh [ăjŋ]	ep [ɛp]	et [ɛt]	ach [ăjk]
	/ɔ/	o [ɔ]	oi [ôj]		om [ɔm]	on [ɔn]	ong [ăwŋ]	op [ɔp]	ot [ɔt]	oc [ɔk]
	/ɔ̌/		ây [ôj]	âu [ăw]	âm [ăm]	ân [ăn]	âng [ăŋ]	âp [ăp]	ât [ăt]	âc [ăk]
	/ə/	ơ [ə]	oi [ôi]		om [əm]	on [ɔn]		ơp [əp]	ơt [ət]	
	/e/	ê [e]		êu [ew]	êm [em]	ên [en]	ênh [ôjŋ]	êp [ep]	êt [et]	êch [ôjk]
	/o/	ô [o]	ôi [oj]		ôm [om]	ôn [on]	ông [oŋ]	ôp [op]	ôt [ot]	ôc [ɔwk]
	/i/	i,y [i]		iu [iw]	im,ym [im]	in [in]	inh [iŋ]	ip,yp [ip]	it [it]	ich,ych [ik]
	/i/	ư [i]	ưi [ij]	ưu [iw]			ưng [iŋ]		ưt [it]	ưc [ik]
	/iə/	ia,ya [iə]		iêu,yêu [iəw]	iêm,yêm [iəm]	iên,yên [iən]	iêng,yêng [iəŋ]	iêp,yêp [iəp]	iêt,yêt [iət]	iêc [iək]
	/iə/	ưa [iə]	ưoi [iəj]	ưou [iəw]	ưom [iəm]	ưon [iən]	ưong [iəŋ]	ưop [iəp]	ưot [iət]	ưoc [iək]
Âm lướt vòm đứng trước nguyên âm hạt nhân	/uə/	uô [uə]	uôi [uəj]		uôm [uəm]	uôn [uən]	uông [uəŋ]		uôt [uət]	uóc [uək]
	/wă/		oay, ^(q) uay [wăj]		oăm, ^(q) uăm [wăm]	oăn, ^(q) uăn [wăn]	oăng, ^(q) uăng [wăŋ]	oăp, ^(q) uăp [wăp]	oăt, ^(q) uăt [wăt]	oăc, ^(q) uăc [wăk]
	/wa/	oe, ^(q) ue [wa]		oeo, ^(q) ueo [waw]	oem, ^(q) uem [wam]	oen, ^(q) uen [wan]	oanh, ^(q) uanh [wəŋ]		oet, ^(q) uet [wat]	oach, ^(q) uach [wak]
	/wɛ/	oe, ^(q) ue [wa]		oeo, ^(q) ueo [waw]	oem, ^(q) uem [wam]	oen, ^(q) uen [wan]	oanh, ^(q) uanh [wəŋ]		oet, ^(q) uet [wat]	oach, ^(q) uach [wak]
	/wɔ̌/		uây [wôj]			uân [wăn]	uâng [wăŋ]		âut [wăt]	
	/wə/	ươ [wə]								
	/we/	uê [we]		uêu [weu]		uên [wen]	uênh [wôjŋ]		uêt [wet]	uêch [wôjk]
	/wi/	uy [wi]		uyu [wiw]		uyn [win]	uynh [wiŋ]	uyp [wip]	uyt [wit]	uych [wik]
	/wiə/	uya [wiə]				uyên [wien]			uyêt [wiət]	
	Thanh điệu	a /a/, ă /ă/, á /ă/, á /ă/, ă /ă/, ă /ă?, ă /ă?						á /ă/, ă /ă?		

表7：ベトナム語の韻体系

の /m/, /n/ に、普通話の /ng/ はベトナム語の /o/, /u/ に高い確率で対応していることが見て
 /ng/, /nh/ に、普通話の /i/ はベトナム語の /i/ とれる。
 (/y/) に、普通話の /o/, /u/ はベトナム語の 上記で取り上げなかった、ベトナム語の /p/,

		/ø/				/i/						/o/				/ô/	/ơ/	/u/						/ư/				
		a	ă	â	ê	i,y	iê	ia	io	iô	iơ	o	oa	oă	oâ	ô	ơ	u	ui	ua	uă	uê	uô	uâ	ư	ura	ươ	
/ø/	a	1579	6	23	4	5	189	11			2	7	19			16	9	3	3						4		148	
	ē	349	134	188	11	122	31	8				13	24			107	5	17	19	2		1	7		20	3	2	
	er					25																						
/-i/	i[ɿ]	5	5	33	17	167	4										1		4						32			
	i[ɪ]	1			4	46													8						87			
/i/	i[i]	84	21	342	259	814	10	3					17			4	25	3	8			4			40		2	
	ia	149			13	1		735	104	2	1			3			5	1		16					4		152	
	ie	41			6	10	6	174	28			15						3		1			2			1		
	io	1			20		3	7					12						110	18					1	124		2
/o/	o	109	9	160		4	4						33	10	4		157		188	1		2				41		
/u/	u	149	6	49	2		1						19	103	6	2	407	14	255	17	21	6	3	2	15	73		25
	ua	39			1	1	1	4					12	250			9			63	77	1	2	18	5		10	
	ue		9	9	2	44							3	13			204		5	159	10		47		42	1		
/y/	ü	4			38	1	4							3			7	2	162	5		1			106	155	1	
	üa							21						16						104					2			
	ue	9						7	7				3	5			1		1	41	1	3	2		5			24

表8：普通話の「韻頭＋韻腹」とベトナム語の韻腹の対応表

	ø	/m/	/n/	/ng/	/nh/	/i/,y/	/o/,u/	/e/	/p/	/t/	/c/	/ch/
ø	2316	4	11	15	4	127	44	0	288	579	499	271
/n/	5	527	1624	21	16	2	1	0	5	7	0	1
/ng/	3	3	6	1150	500	0	0	0	1	0	0	0
/i/	202	1	4	4	0	644	2	1	1	15	18	19
/o/,u/	288	0	2	3	0	7	1131	0	0	41	179	25

表9：普通話の韻尾とベトナム語の韻尾の対応表

/t/, /c/, /ch/ に関しては、2. で示したとおり、中古漢語において存在していた入声音は、普通話では消滅してしまっているため、対応が一定ではないが、入声音は普通話の韻尾なし (ø) に相当の割合で集約されているのが窺える。

3.5. 声調

普通話、ベトナム語ともに声調言語である。普通話は4つの声調を、ベトナム語は6つの声調を持っている。声調における対応関係を表10にまとめる。なお、普通話は4つの声調を持ち合わせているが、「轻声」と呼ばれる声調を持たない音節も存在するため、轻声も含めた5種類で分類する。

表10の縦軸は普通話の声調で、横軸はベトナム語の声調である。それぞれの声調名の後に

ある () は声調を表記するための符号を著わしたものである¹⁶⁾。さらに、声調名に付随する数字は「五度値」と呼ばれる、声の高低を示したものである。「5」が高く、「1」が低い音を表している。ベトナム語の5番目にある Thanh ngã の五度値にある「?» は3と5の間に声門閉鎖がおこなわれ、音が途切れることを意味している。

普通話の「阴平」に対応するベトナム語の声調は「Thanh ngang」で、どちらも高音を保ったまま発声する声調となっている。ただし、「Thanh ngang」は普通話の「阳平」にも対応していることがわかる。普通話の「阳平」と「去声」については、前者はベトナム語の「Thanh huyền」に、後者は「Thanh sắc」に対応しているが、五度値で判断すると、「阳平」と「Thanh

	Thanh ngang 44 (a)	Thanh huyền 31 (à)	Thanh sắc 35 (á)	Thanh hỏi 313 (ã)	Thanh ngã 325 (ã̃)	Thanh nặng 322 (ạ)
阴平 55 (ā)	2081 <u>75.6%</u>	119 4.3%	375 <u>13.6%</u>	61 2.2%	22 0.8%	96 3.5%
阳平 35 (á)	1045 <u>39.1%</u>	924 <u>34.6%</u>	313 <u>11.7%</u>	19 0.7%	24 0.9%	347 <u>13.0%</u>
阳平 35 (á)	85 4.6%	19 1.0%	262 14.1%	893 <u>48.2%</u>	446 <u>24.1%</u>	148 8.0%
去声 51 (à)	165 5.0%	64 2.0%	1448 <u>34.7%</u>	140 4.2%	192 5.8%	1295 <u>39.2%</u>
轻声 ⁻¹⁵⁾ (a)	18 <u>42.9%</u>	1 2.4%	10 <u>23.8%</u>	2 4.8%	4 9.5%	7 <u>16.7%</u>

表10：普通話の声調とベトナム語の声調の対応表

sắc」が上昇調の声調で、「去声」と「Thanh huyền」が下降調の声調であり、同じ特性を持ち合わせた声調が対応するかと思われたが、それとは反対の結果となっていることが窺える。普通話の「上声」はベトナム語の「Thanh hỏi」と対応しており、両者とも谷型のように音節の途中で屈折する特徴を持ち合わせている。普通話の「去声」は下降調であるが、ベトナム語の「Thanh sắc」の上昇調と対応しており、「阳平」と同様に対応する調形が逆転しているのがわかる。普通話の「轻声」については、調査の漢字が少ないため、本稿では取り扱わない。

ベトナム語の観点から声調を見ると、「Thanh ngang」, 「Thanh sắc」, 「Thanh nặng」は普通話の声調と1対1で対応していないことがわかる。ただ、「Thanh nặng」は普通話の「去声」に対応している傾向が窺える。また、残りの「Thanh huyền」は「阳平」に、「Thanh hỏi」は「上声」に、「Thanh ngã」は「上声」に対応する傾向にあることが見てとれる。

4. まとめ

普通話の音節がベトナム語の音節とどのような対応関係にあるかを、音節の要素である声母（頭子音）、韻母（韻頭（介音）、韻腹（主母音/核母音）、韻尾）、声調に分けて集計をおこなった。普通話の声母も韻母も種類がベトナム語よ

り少ないために、普通話とベトナム語の音節が1対1の対応関係にならないことは明らかであるが、対応関係にある一定の傾向が見られることが窺えた。

中国では『説文解字』が編纂されたころから音韻について研究され、声母や韻母においても、中国音韻学の手法が確立している。しかし、ベトナム語のクオック・グーはフランス人宣教師の手によってアルファベット化されたものであり、中国音韻学のような手法が確立しておらず、声母（頭子音）も韻母もすべてアルファベット順で書かれているのみであった。これは日本語の「いろは歌」に似た状況であろう。「いろは」の順序は子音や母音の特性に着目した体系的な分類がなされておらず、日本語学習者にも理解が難しいばかりでなく、「いろは歌」の詩歌がわからない日本人でさえ順序を憶えておくのは難しいことである。そこに仏教が伝来し、サンスクリット語を研究することで、日本語の仮名に「五十音順」が誕生した。漢越語を多く持つベトナム語においても、アルファベット順では漢越音を体系的に捉えることができなかった。そこで、中国音韻学の手法をベトナム語に用い、声母や韻母を特性によって整列させたことで、対応関係に一定の傾向が見えた。

「普通話で学習した漢字音の知識を、ベトナム語の語彙の習得に活用できるか」を考察する

目的で本稿の研究に取り組んできた。今日の普通話とベトナム語の間には一定の対応は見つけれられたものの、明確なものは見出すことができなかった。それは、普通話もベトナム語も独自の変化が起きていて、その関連性が薄れていったものと考えられる。本稿で得られなかった関連性をさらに明確にするために、普通話に限定することなく、漢民族の方言である粵語（広東語）や呉語（上海一帯の方言）などにも研究対象を広げ、対応関係が本稿で得られた結果以上に明確なものにすることを今後の課題とした。

【注】

- 1) 現在のモンゴル国の地域は大清帝国（1616-1912）の版図内にあり、歴史的には漢字を使用していたが、モンゴル語自体は漢字で表記しないため、本稿では漢字文化圏に入れない。
- 2) 韓国では陰暦のため1443年となる。
- 3) 「朝鮮民主主義人民共和国における漢字教育－1990年代を中心に－」（植田晃次著、『国際開発研究フォーラム』26（2004.3））を参照。
- 4) 原文「대한민국의 공용 문서는 한글로 쓴다. 다만, 얼마동안 필요한 때에는 한자를 병용할 수 있다.」
- 5) 2017年3月21日に改定されている。「国語基本法」（崔榮繁訳，手話言語法韓国調査（2017）参考資料 韓国手話言語法関連法規，2018年4月10日）を参照。原文「공공기관등은 공문서를 일반 국민이 알기 쉬운 용어와 문장으로 써야 하며, 어문규범에 맞추어 한글로 작성하여야 한다.」
- 6) 『文字の歴史』（ステイーヴン・ロジャー・フィッシャー（Steven Roger Fisher）著，鈴木晶訳，研究社，2005）（p.244）
- 7) 1651年、フランス人宣教師であるアレクサンドル・ドゥ・ロード（Alexandre de Rhodes）が著した『ベトナム語-ラテン語-ポルトガル語辞典（*Dictionarium Annamiticum Lusitanum et Latinum*）』にベトナム語をラテン・アルファベットで表記したものが起源とされている。
- 8) 例）「重」：「zhòng」（「重い」の意）と「chóng」（「重なる」の意）
- 9) 英：Affricate，中：塞擦音，越：Tắc xát xuýt
- 10) 英：Fricative，中：擦音，越：Xát
- 11) 英：Implosive，中：内爆音，越：Hút vào
- 12) 英：Non-aspirated，中：不送気音，越：Không hơi
- 13) 英：Aspirated，中：送気音，越：Bật hơi
- 14) -i は前置する声母によって、そり舌音 zh, ch, sh, r に後続する i は声母の影響を受けて [ɿ]（そり舌の [i]）となり、歯茎音 z, c, s に後続する i は [ɪ]（奥舌の [i]）となる。[ɿ] と [ɪ] は国際音声記号への記載がなく、中国語独自の発音記号である。それぞれ [ɿ], [u] に該当するといえる。
- 15) 軽声には固定した調値がなく、前置する漢字の音節によって変化する。
- 16) 声調符号の付し方を明確にするため、「a」に付した場合を例として挙げた。

【参考資料】

《論文》

- 植田晃次著，「朝鮮民主主義人民共和国における漢字教育－1990年代を中心に－」，『国際開発研究フォーラム』26，2004
- 稲葉継雄著，「解放」後韓国における「ハングル専用論」の展開－米軍政期を中心に－，『文藝言語研究 言語篇（8）』，1983
- 崔榮繁訳，「国語基本法」，『手話言語法韓国調査（2017）参考資料 韓国手話言語法関連法規』，2018

《文献》

○文字

- 大野敏明 著，『詳説 世界の漢字音』，慧文社，2017
- 李相哲 著，『漢字文化の回路 東アジアとは何か』，凱風社，2004
- ステイーヴン・ロジャー・フィッシャー 著，鈴木晶 訳，『文字の歴史 ヒエログリフから未来の「世界文字」まで』，研究社，2005
- フロリアン・クルマス 著，斎藤伸治 訳，『文字の言語学 現代文字論入門』，大修館書店，2014
- 世界の文字研究会 編，『世界の文字の図典』，吉川弘文館，1993

○音声・音声記号

- International Phonetic Association, “Handbook of the International Phonetic Association ~A Guide to the Use of the International Phonetic Alphabet”, 1999
- 菅野裕臣 著，『朝鮮漢字音 入門と発展』，三修社，2017
- 中国語
- 曾毓美 主編，『21世紀对外汉语教材 对外汉语语音』，湖南师范大学出版社，2008
- 杜青 著，『普通话 语音学教程』，中国广播电视出版社，2009

○日本語

沖森卓也 著, 『はじめて読む 日本語の歴史【うつりゆく音韻・文字・語彙・文法】』, ベレ出版, 2010

○ベトナム語

清水政明 著, 『世界の言語シリーズ4 ベトナム語』, 大阪大学出版会, 2011

田原洋樹 他著, 『パスポート 初級ベトナム語辞典』, 白水社, 2017

富田健次 監修, 三省堂編修所 編, 『デイリー 日本語・ベトナム語・英語辞典』, 三省堂, 2018

Trương Văn Giới 編, “Từ điển Việt-Hán Hiện đại (現代越漢詞典)”, Nhà xuất bản Khoa Học Xã Hội (社会科学出版社), 2016

Đoàn Thiện Thuật (Editor-in-chief), “A Concise Vietnamese Grammar (for Non-native Speakers)”, Thế Giới Publishers, 2012

Nguyễn Hữu Vinh 他 著, “Tự Điển Chữ Nôm Trích Dẫn (Dictionary of Nôm Characters with Excerpts)”, Institute of Vietnamese Studies, 2009

《URL》

‘Luong Hieu Thi’s blog’, “All syllables in Vietnamese language”, 2020.2.5 確認

<http://www.hieuthi.com/blog/2017/03/21/all-vietnamese-syllables.html>

‘Ngonngu.net’, “Âm vị và các hệ thống âm vị tiếng Việt”, 2020.2.5 確認

https://ngonngu.net/amvi_tiengviet/64

‘cgv lang’, “East Asian Writing System”, 2020.2.5 確認

<http://www.cjvlang.com/Writing/writviet/writviet.html>

‘Chunom.org’, “List of Standard Characters”, 2020.2.5 確認

<https://www.chunom.org/pages/standard/>

‘Tự Điển Chữ Nôm Dẫn Giải’, “會保存遺產喃”, 2020.2.5 確認

<http://www.vietnamtudien.org/chunom-trichdan/chd.html>

Wikipedia, “Từ điển Việt-Bồ-La”, 2020.2.5 確認

https://vi.wikipedia.org/wiki/T%E1%BB%AB_%C4%91%E1%BB%83n_V%E1%BB%87%E2%80%93%E1%BB%93%E2%80%93La

Wikipedia, “Vietnamese phonology”, 2020.2.5 確認

https://en.wikipedia.org/wiki/Vietnamese_phonology

Wikipedia, “Âm vị học tiếng Việt”, 2020.2.5 確認

https://vi.wikipedia.org/wiki/%C3%82m_v%E1%BB%8B_h%E1%BB%8Dc_t%E1%BA%BFng_V%E1%BB%87t

Wikipedia, “Chữ Quốc Ngữ”, 2020.2.5 確認

https://vi.wikipedia.org/wiki/Ch%E1%BB%AF_Qu%E1%BB%91c_ng%E1%BB%AF

Wikipedia, “韵母”, 2020.2.5 確認

<https://zh.wikipedia.org/wiki/%E9%9F%B5%E6%AF%8D>

Wikipedia, “入声”, 2020.2.5 確認

<https://zh.wikipedia.org/wiki/%E5%85%A5%E8%81%B2>

Abstract

Vietnam, which belongs to East Asian cultural sphere, abolished the use of Kanji. However, the Vietnamese created an original Kanji called “Chu Nom”, and Sino-Vietnamese vocabulary influenced by Chinese characters coming from China forms the Vietnamese vocabulary today. In Vietnam, Chinese reading is called “Sino-Vietnamese reading”, and it is closely related to Chinese reading. In this article, we consider whether the knowledge acquired by Mandarin learners will help to learn Vietnamese, especially vocabulary. There is a significant difference between the Chinese and Vietnamese syllable systems. To highlight the comparison, the syllables are decomposed according to the phonetic method while mixing the two syllable classifications, and a comparison is made for each item.

Key words

Vietnamese reading of Chinese characters (Han-Yue sound), Mandarin, Syllable, Pinyin (Chinese romanization system), Chữ Quốc Ngữ (Vietnamese alphabet), East Asian cultural sphere